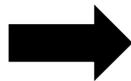


1 はじめに(背景)

- ・新型コロナウイルスの影響
- ・東京オリンピック・パラリンピック, 北京オリンピック・パラリンピック
- ・札幌オリンピック・パラリンピックの誘致 ・人口減少, 少子高齢化の進展
- ・公共施設の老朽化 ・SDGs ・プロスポーツの振興
- ・スポーツ推進条例の制定



スポーツの意義を再認識
新しいスポーツとの関わり

2 旭川市の現状

(1) 少子高齢化の進行

(人)

	H29.4.1	R4.4.1	増減	割合(%)
総人口	341,335	326,057	▲15,278	▲4.5
14歳以下	38,178	33,853	▲4,325	▲11.3
15～64	194,649	179,093	▲15,556	▲8.0
65歳以上	108,507	113,111	4,604	4.2



- ・2030年には30万人を割り込むことも
- ・人口動態を見据えたスポーツ環境の構築

(2) 施設の老朽化

- ・公共建築物の64%が建築後30年以上
- ・特に総合体育館のアリーナ部分は耐震基準に適合していない



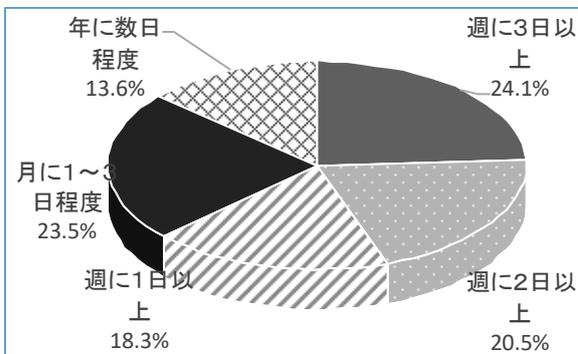
- ・計画的な施設整備, 改修
- ・社会状況を見据えた施設の在り方の検討

(3) 市民アンケート調査結果

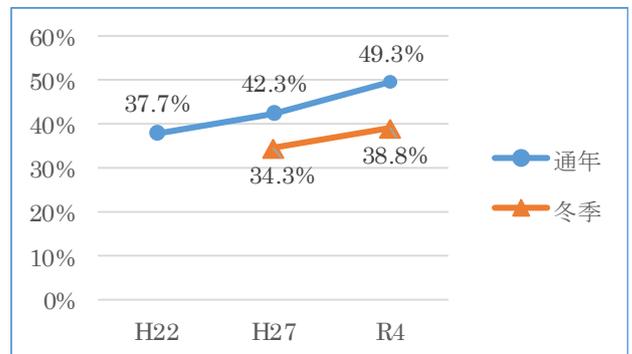
- ・ スポーツに関する市民の意識やスポーツ振興への期待などを把握するため、スポーツ・運動に関するアンケート調査を実施
- ・ 成人が週に1回以上運動・スポーツを行っている「スポーツ実施率」は、冬季を含め上昇している
- ・ 運動・スポーツの種類は、「ウォーキング」「体操」「サイクリング」「トレーニング」が上位を占めるとともに、行う理由では「健康・体力づくり」に関するものが約7割を占める
- ・ コロナによる運動頻度の低下を感じる割合が47.8%
- ・ 運動・スポーツの場所を約7割が「確保できる」「だいたい確保できる」と回答している一方、施設の充実や情報を求める回答が多かった

ア 取組状況

実施率

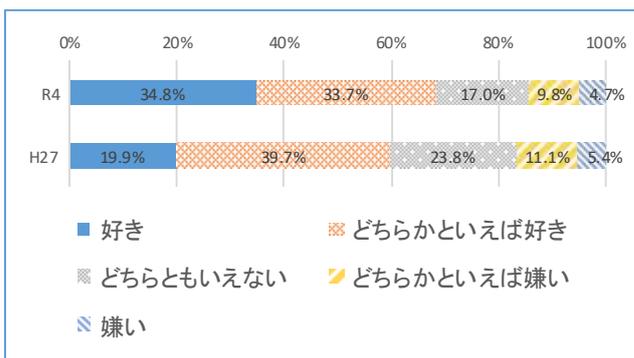


冬季実施率との比較

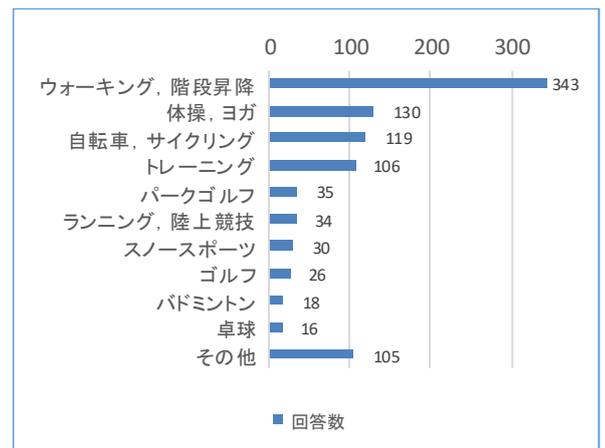


イ 運動・スポーツへの意識

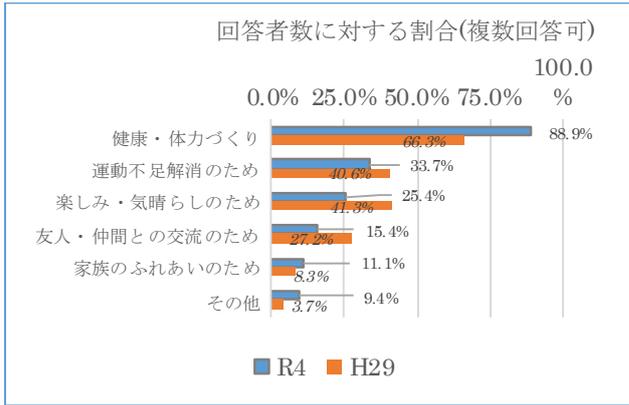
好きか



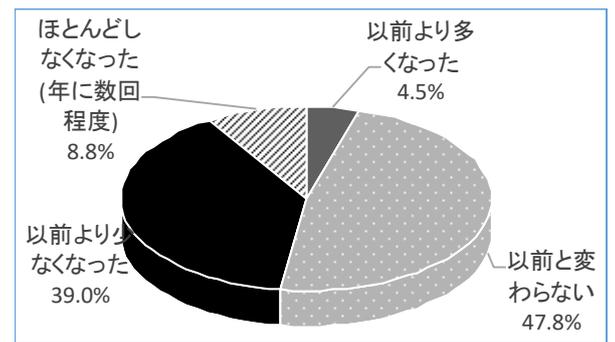
運動・スポーツの内容



行う理由

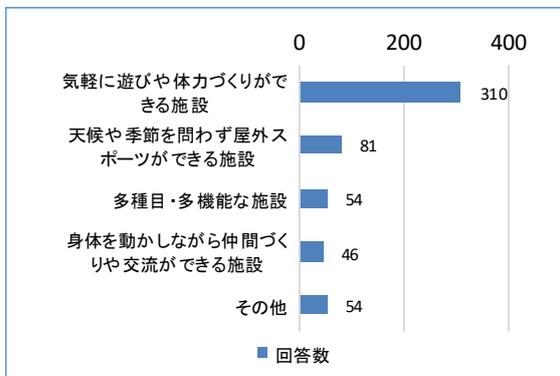


コロナ前との比較

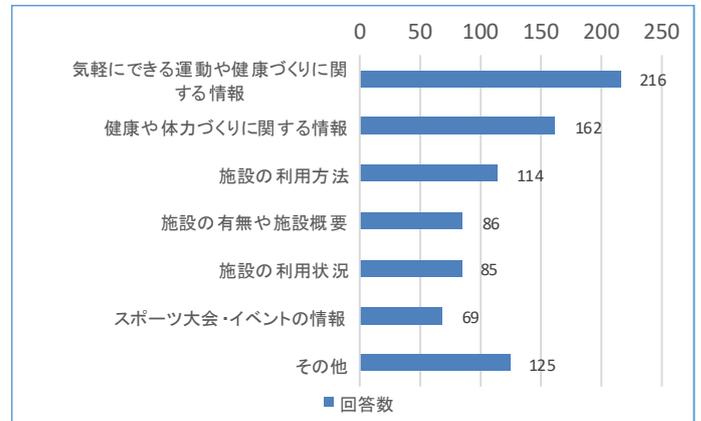


ウ スポーツ推進に求めるもの

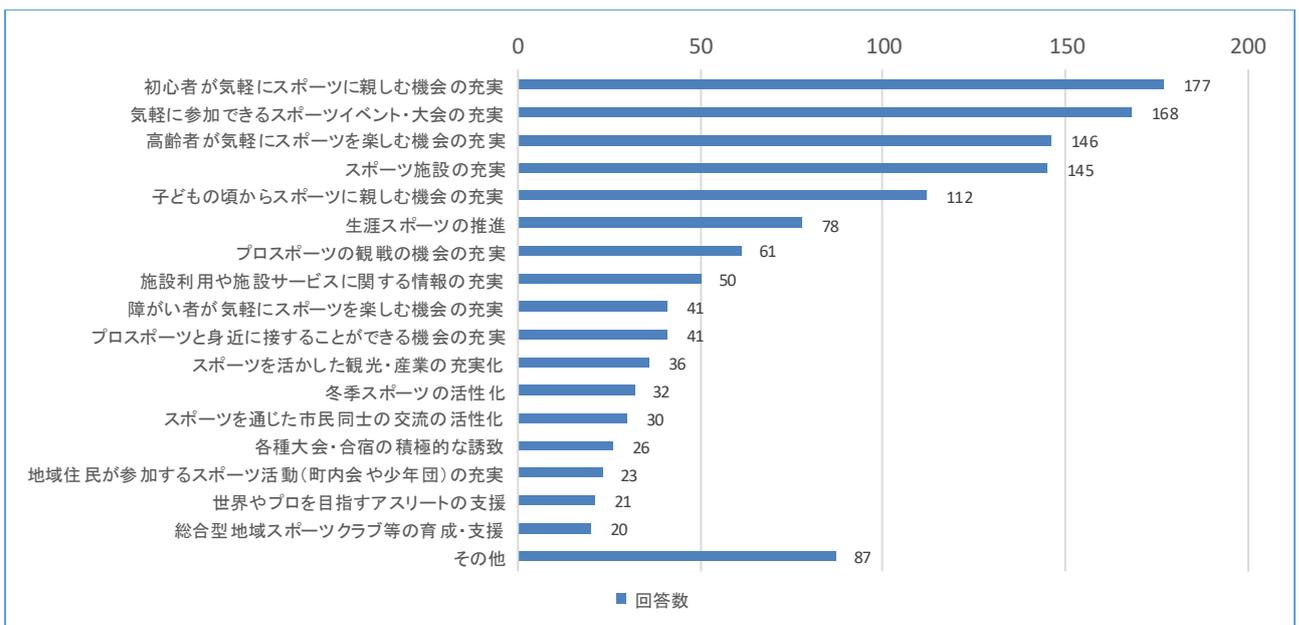
施設に望む機能



知りたい情報



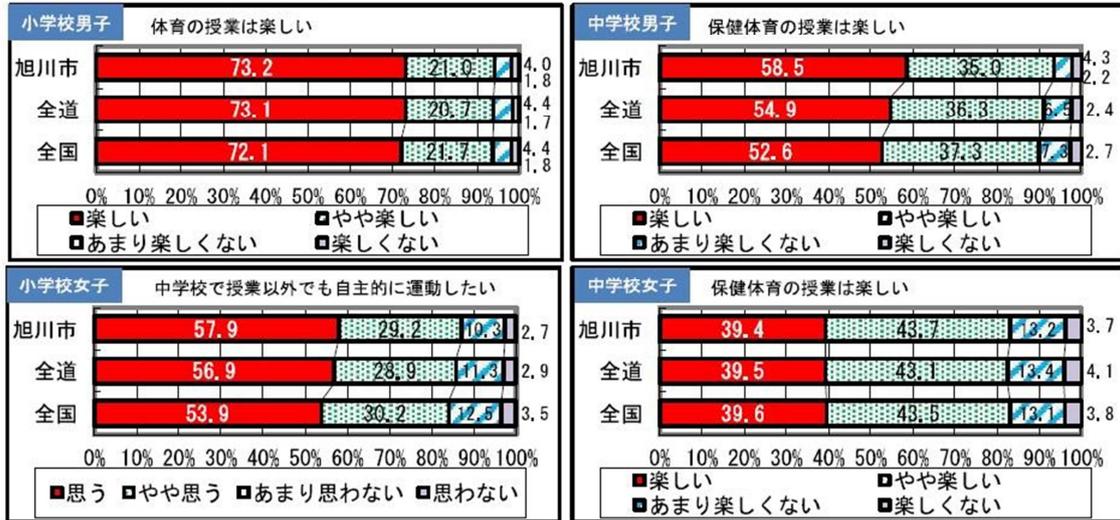
本市が優先すべき取組



(4) 子どものスポーツ

スポーツ庁実施の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」では、体育の授業が楽しいと回答した児童・生徒が特に男子で多かった一方で、体力合計点では全国と比べて低い数値となっている。

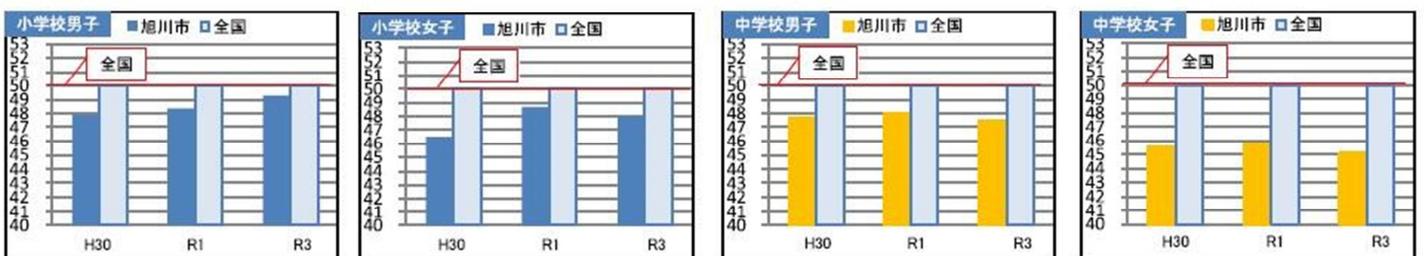
【児童生徒質問紙】



【体力合計点総合評価の児童生徒の割合】



【体力合計点の全国との差(T得点)の推移】



(5) 第2次スポーツ振興計画の評価

全体評価	課題
主要課題1 生涯スポーツの振興	
<p>評価:B HPやSNS等を活用した情報発信に努めた。 車いすラグビー日本代表等の合宿誘致をはじめ、市民との協働によるレク・ポッチャ選手権等の開催、バイスキー・シットスキーの購入や体験会の開催により、障がい者スポーツを推進した。 スポーツ推進委員会で新たな自主事業を開催したほか、町内会等への出前講座講師派遣でニュースポーツの普及を進めた。 大会派遣費補助金の拡充、ヴォレアス北海道との連携、レスリング女子日本代表等の合宿誘致などにより、競技力の向上やスポーツへの関心向上、競技の裾野拡大などにつながった。 市民意識調査では、スポーツ実施率が上昇したほか、スポーツや運動を「好き」「どちらかと言えば好き」と答えた市民の割合が上昇するなど成果が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS等を活用した更なる情報発信 ・誰もが気軽にスポーツに取り組めるよう、現状把握と官民連携による事業の在り方を検討 ・スポーツに関わる範囲の拡大により、庁内関係部局や関係団体との横断的なネットワーク構築
主要課題2 地域スポーツ活動の拠点整備	
<p>評価:B 予約システムの導入や共通利用券の発行等により、市民の施設利用活用の推進を図った。 東光スポーツ公園や、末広、緑が丘にスポーツが実施可能な施設を整備し、老朽化した施設の改修を進めた。 また、北海道スポーツ協会と連携し、総合型地域スポーツクラブの設立を支援した。 市民意識調査では、運動・スポーツを行う場所について、約7割の人が「確保できる」と回答した一方で、施設の充実や情報を求める人の割合が多かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が安全にスポーツをすることができるよう計画的な施設の整備・改修 ・効果的な情報発信や魅力的なイベントによる施設の利用促進
主要課題3 子どものスポーツ振興	
<p>評価:C 子どもの運動機会の向上のため、市民スポーツの日の事業としてスポーツ施設及び小中体育館の無料開放を行ったほか、スポーツ推進委員による「ちびっこZoo体操」制作、伊ノ沢スキー場で野外活動の体験会等を実施した。 また、バイスキー・シットスキーを購入し、スキー授業などへの無償貸出や体験会を実施した。 少年団活動の促進等のため、大会派遣費補助金を拡充した。 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」では、授業改善等により、体育の授業を楽しんでいる割合や自主的に運動したいと思う割合が全国・全道よりも高い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが幼少期から運動習慣を身につけることができるよう、総合型地域スポーツクラブなど地域と連携した取組の推進 ・多様なニーズに対応したスポーツ環境の整備 ・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」の体力テスト総合評価において、C評価以上の割合が全国よりも下回っている
主要課題4 冬季スポーツの振興	
<p>評価:B バーサーロペット・ジャパンのコース一元化や参加料の見直しを行い大会の魅力向上を図ったほか、歩くスキーリユース事業やスノーシュー・スノーボード等の体験会実施により、冬季スポーツの機会創出に取り組んだ。 また、スポーツ推進委員会にて「雪あそび・スケートまつり」の開催や、伊ノ沢スキー場で野外活動の体験会等を実施した。 北彩都歩くスキーコースや富沢トイレの整備、圧雪車購入等で冬季スポーツ施設の整備を進めた。 市民意識調査では、冬季のスポーツ実施率が上昇している一方で、夏季に比べて13.6%低い39.0%となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季スポーツへの市民の関心を高めるため、事業内容の改善や効果的な情報発信による参加促進 ・計画的な施設整備 ・冬季スポーツ大会の誘致

<評価について>

- A: 課題が解決されている。
- B: 施策の展開が課題解決に向け効果を発揮している。
- C: 課題解決に向け施策の展開を継続する。
- D: 展開施策の見直しが必要である。

3 スポーツ推進計画

(1) 概要

ア 位置付け

国のスポーツ基本計画を参酌し、旭川市第8次総合計画の達成を目指す。

イ 計画期間

令和5年度から令和9年度までの5年間

ウ 重点

- ① スポーツ機会の創出と充実
- ② スポーツ環境の整備
- ③ スポーツの担い手の育成と連携の推進
- ④ スポーツ交流などによる地域活性化の推進

エ 推進体制

スポーツ推進審議会、スポーツ推進庁内検討会議

(2) 詳細

重点1 スポーツ機会の創出と充実

■目標像

誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境が整備され、スポーツを通じて共生社会の実現が図られている。

■施策

施策	内容
1 生涯を通じてスポーツに触れることのできる環境づくり	
① 子どものスポーツ推進	・気軽に様々なスポーツを楽しめるようイベントの実施や体操の普及 ・体育の授業を通してスポーツの楽しさを感じられるよう環境整備
② 子育て世代・働く世代のスポーツ推進	・スポーツに取り組む機会の創出に向けて、SNS等を使った情報発信や夜間などのイベントの開催
③ 高齢者のスポーツ推進	・心身の状況に応じて無理なく取り組むことのできるスポーツの推進や機会の創出
2 スポーツを通じた健康づくり	
① 気軽にスポーツに取り組める環境づくり	・身体活動の活発化や運動の習慣化のため、日常生活の中で気軽にスポーツに取り組める環境を整備
② 福祉や健康づくりに向けた関係者との連携推進	・民間事業者や団体、市内部の関係部局と連携し、市民の多様なニーズや健康状態に応じて健康増進を図る。

3 多様な主体が参画できる環境づくり		
①	障がい者スポーツの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいの有無に関わらずスポーツを楽しめるよう大会要綱や施設のバリアフリー化の検討 ・パラスポーツの普及 ・パラスポーツの大会や車いすラグビーなどの合宿誘致
②	スポーツをしにくい要因の調査・検討	<ul style="list-style-type: none"> ・性別や年代、家庭環境等様々なスポーツをできない要因の調査・検討 ・女子スポーツの課題を検討
4 冬季スポーツの振興		
①	冬季スポーツに取り組む環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの開催や歩くスキーのリユースなど参加する機会の充実
②	冬季スポーツ施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・カムイスキーリンクスや大雪アリーナ等の計画的な施設改修 ・北彩都の歩くスキーコースや富沢のクロスカントリーコースの整備
5 新たなニーズに対応したスポーツ活動の推進		
①	新たなスポーツの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・アウトドアスポーツやアーバンスポーツなど新たなスポーツの普及や推進 ・eスポーツを含めたバーチャルスポーツとの関わり方を検討
②	デジタル技術を活用したスポーツの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・リモートによるスポーツ教室などデジタル技術を活用したスポーツ活動の推進

重点2 スポーツ環境の整備

■目標像

本市の豊かな自然や都市環境の優位性を活かすとともに、市民の多様なニーズに適応し、市民が継続的にスポーツすることができる活動の拠点が整備されている。

■施策

施策	内容
1 スポーツ施設の整備	
① スポーツ施設の老朽化対策	・老朽化が進んでいる施設について計画的な整備・改修 ・施設のバリアフリー化, ユニバーサルデザイン化
② スポーツ施設の整備推進	・東光スポーツ公園基本計画に基づく整備検討 ・屋内練習場など新たな施設の整備検討 ・カムイスキーリンクスの在り方を検討
2 スポーツ施設の利用促進	
① スポーツ施設の利便性向上	・市民ニーズに対応した管理運営やサービスの質の向上
3 スポーツに関する情報発信や相談機能の充実	
① スポーツに関する情報発信や相談機能の充実	・デジタル技術などを活用した情報発信や各施設における相談機能の充実 ・機能充実に向けた財源確保のためネーミングライツの導入拡大の検討

重点3 スポーツの担い手の育成と連携の推進

■目標像

- ・スポーツを通して、地域住民、学校、競技団体、プロスポーツなど多様な主体が連携・協力し、競技力の向上や地域における交流が図られている。
- ・地域において、誰もが気軽にスポーツに参画できる環境が整備され、人のつながりなど地域社会の課題解決にスポーツが貢献している。

■施策

施策	内容
1 スポーツの担い手による自主的な活動の推進	
① 旭川市スポーツ協会の活動充実	・各スポーツ団体との連携や情報発信、相談機能などの更なる充実
② スポーツ推進委員の活動促進	・スポーツ推進委員の役割拡大や組織強化 ・認知度を高めるための周知の拡大
③ スポーツ少年団の活動促進	・情報発信や活性化の促進
④ 総合型地域スポーツクラブの活動促進	・設立の支援や活動の認知度を高めるための情報発信
⑤ ボランティア活動の促進	・スポーツボランティアのPRや活動の拡大の検討
2 学校や地域におけるスポーツ活動の推進	
① 地域で支える学校部活動の推進	・総合型地域スポーツクラブや競技団体など、地域において部活動の担い手を確保し、学校への指導者派遣など新たな連携を構築
② 地域における子どものスポーツ活動の推進	・児童や生徒が身近な地域において多様なスポーツに親しむことができるよう、総合型地域スポーツクラブや少年団、学校などの連携・協力の推進
3 スポーツ団体等の連携強化	
① 情報共有・意見交換の場づくりの推進	・スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ、競技団体等の情報共有・意見交換など連携・協力の推進
4 競技力の向上	
① 競技力向上の支援	・全国大会等に出場する選手に対する補助事業の周知
② 国や道等との連携推進	・国や道が行うアスリート発掘事業等への協力 ・旭川大雪圏域連携中枢都市圏の連携

重点4 スポーツ交流などによる地域活性化の推進

■目標像

本市の豊かな自然や都市環境といった地域資源を活用し、スポーツ大会や合宿の誘致、プロスポーツイベントの観戦や観光などを目的とした本市への来訪を促進することにより、競技力の向上や競技の裾野拡大、交流人口の拡大、地域経済への波及効果が創出されている。

■施策

施策	内容
1 スポーツ合宿・大会等の誘致推進	
① 合宿誘致の推進	・競技団体や関係団体と連携し、日本代表レベルをはじめとしたチームの合宿誘致を推進
② 大会誘致の推進	・競技団体や関係団体と連携し、競技レベルの高い大会の誘致を進めるとともに、スポーツ大会の主催者に対し開催補助を行う。 ・インターハイの実施
③ ナショナルトレーニングセンターの誘致検討	・札幌冬季オリンピック・パラリンピックを見据え、冬のナショナルトレーニングセンターの誘致を検討
2 大規模スポーツイベントの魅力向上	
① 大規模スポーツイベントの見直し	・バーサーロペット・ジャパンについて持続可能な大会の在り方について検討 ・ハーフマラソンについて、大会の魅力向上やフルマラソン化の検討
3 スポーツ観光の推進	
① スポーツ観光の充実	・スポーツを目的とした観光誘致が図られるよう体験や観戦、合宿と観光を結びつける取組を促進
4 プロスポーツとの連携	
① ヴォレアス北海道の連携推進	・協定に基づき、ホームゲームの開催支援やPRのほか競技力の向上や健康増進、環境保全などに向けた連携の強化
② 北海道コンサドーレ札幌との連携推進	・協定に基づき、競技力の向上や健康増進、環境保全などに向けた連携の強化
③ プロ野球公式戦の旭川開催の誘致、連携強化	・試合数の増加を目指し北海道日本ハムファイターズが行う試合や事業への協力し室内練習場の整備を検討
④ プロスポーツチームとの連携推進	レバンガ北海道、エスポラーダ北海道などプロスポーツチームとの連携を強化し、スポーツを通じた地域活性化を促進

(3) 指標

	現状	指標(案)	
スポーツ実施率	49.3%	70%	
子どものスポーツ			
1週間の総運動時間が60分未満の割合	小学生	12.1%	6%
	中学生	17.8%	9%
卒業後も運動やスポーツをしたいと「思う」「やや思う」割合	小学生	89.2%	90%
	中学生	82.6%	90%
新体力テストの総合評価がC以上の割合	小学生(男子)	61.3%	80%
	小学生(女子)	62.8%	80%
	中学生(男子)	56.8%	85%
	中学生(女子)	69.0%	85%
スポーツ実施率(冬季)	38.8%	50%	
スポーツ実施率(障がい者)	46.5%	50%	
スポーツ実施率(女性)	47.0%	70%	
スポーツ実施率(高齢者)	58.2%	70%	
運動・スポーツを行いたい時に場所を確保できる市民の割合	69.7%	80%	